

**大学コンソーシアム富山 地域課題解決事業  
令和2年度 地域課題提案書（新規・継続）**

自治体等名	舟橋村	担当者	所属 総務課 氏名 中井 明日香 TEL 076-464-1121 E-mail somu03@vill.funahashi.toyama.jp
地域課題名	芸術の観点を切り口とした都市公園における多世代交流の推進	事業費	400～700千円程度
地域課題の背景	<p>舟橋村は全国最小の村である。平成元年以降、富山市のベッドタウンとして人口が倍増し、子育て世帯を中心に転入が相次いだことから、現在の平均年齢は約41歳と若く、平成22年の国勢調査では年少人口割合が21.8%と全国1位になった。一方、急激な人口増は核家族割合の増加やコミュニティの希薄化・断片化を招き、自助・共助能力は急激に低下。さらに、人口ピラミッドは、転入世代が高齢化することによる10年・20年後の急激な高齢化を示唆している。</p> <p>こうした人口減少・少子高齢化の問題は自治体だけが抱える課題ではなく、企業等にとっても事業の縮小や合併・廃業、人手不足等を招く大きな課題である。そこで舟橋村は、富山大学との連携のもと、CSV（共通価値の創造、地域課題を企業がビジネスベースで解決することによって地域の価値と企業の価値を同時に上げる取り組み）による地方創生プロジェクトを展開。特に、造園業界は公共工事の入札価格低下や庭木剪定の減少が顕著となり、将来に対する大きな危機感を抱えていたことから、県内造園3団体は平成29年1月に富山大学・舟橋村と全国初となる地方創生に関する覚書を締結した。また公園の現場では、村内外の子育て世帯・子どもをターゲットに、人と人とのつながりづくりを目的としたイベントの開催等によって、来園者の公園への愛着と村への期待感を生み出し、村への転入につなげる取り組みに県内企業がビジネスベースで挑戦。この取り組みは、昨年10月には第34回都市公園等コンクールで最高賞となる国土交通大臣賞を受賞した。</p>		
課題の概要	<p>(1) 課題＝解決したい問題の説明、(2) その課題解決において自治体が行うこと、(3) 高等教育機関に求めたいこと、<u>についてできるだけ具体的に記入願います</u></p> <p>本プロジェクトによって、当該公園には村内外から子育て世帯・子どもたちが集まり、集まった人同士のゆるやかなつながりを形成する場、愛着と期待感を生み村への転入のきっかけとなる場として機能し始めた。しかし一方で、公園を使いこなす世代は子育て世帯・子ども達を中心となり、その他の</p>		

	<p>世代の姿はあまり見られないのが現状である。</p> <p>そこで、今回いただきたい提案は、都市公園・京坪川河川公園における多世代交流のきっかけづくり、場づくりである。これまでの子育て分野とは一線を画し（提案内容によっては連携も可能）、特にデザインやアートを切り口としていただくことを想定している。</p> <p>デザイン・アートとの関わり方については、公園に遊びに来た人と一緒に取り組むこと、公園に関わること、そして愛着を持ってもらうこと等を目的とする場づくり、デザイン、ワークショップやイベントの開催等をイメージしており、単なる芸術作品の購入・展示ではない。また、その手法等はこれからの地域を担う学生たちの視点による自由な発想を求めている。</p> <p>高等教育機関等の学生たちは、ゼミ単位などで取組み、地域が抱える課題に関して主体的に現地調査や分析等を実施し、必要な対策を提案する。その提案を受けて、村は実現可能性を検討するとともに、実施にあたっての調整・環境整備を行い、学生たちは自分たちの提案を実践し、発表会や報告書等で取組みを検証する。</p>
事業実施に当たっての協働体制	<p><b>【自治体等の役割】</b> 調査研究に必要な経費の負担、各種情報や場の提供、各種調整・伴走（学生と一緒に考えます）、マスコミ等との連携による活動周知・PR</p> <p><b>【高等教育機関の役割】</b> 学生目線での現地調査・分析、提案とその実践</p>
成果の活用方法	次年度への展開

**【作成上の注意】**

- 1 「事業費」欄は、高等教育機関に対し支出する金額を記入願います。  
(自治体等からの事業費が、本事業実施経費の全額となります。)
- 2 提案課題に関する詳細資料(秘密事項は除く)がある場合は、添付願います。
- 3 提案課題が複数ある場合は、別様に記載願います。
- 4 提案書は1ページに収める必要はありません。できるだけ具体的に記入願います。